

消滅した前方後円墳（愛宕山古墳（若小玉古墳群））

愛宕山古墳は、大字若小玉・藤原町にある若小玉古墳群に於て所在した前方後円墳です。旧埼玉県史や地域に残された見取り図によると、現存する八幡山古墳と地蔵塚古墳を含めて、三方塚、荒神山、愛宕山など11基の古墳に名前が付けられて、昭和9（1934）年以前にはその存在が認識されていました。

ところが、同年、小針沼の埋め立て工事によって、愛宕山古墳以外の多くの古墳が埋め立て用の土砂へと変わってしまいました。その時に横穴式石室が露出した八幡山古墳には、太田村が埼玉県に調査を依頼したこともあり、さまざまな専門家が訪れました。同時に、近くに於いた愛宕山古墳を見学した記録も残され、旧

埼玉県史には当時の姿を写した写真が掲載されています。

その後、昭和23（1948）年4月に米軍が撮影した空中写真には前方後円墳の姿が写っていましたが、10年後の昭和33（1958）年に国土地理院が撮影した空中写真では愛宕山古墳が跡形もなく消えてしまっているのです。その消滅した理由は、終戦後、長野藩の完成に伴い、愛宕山古墳の墳丘を崩して古い用水路を埋めたためだと伝わっています。その時に採集されたのが写真の円筒埴輪であり、その逸話とともに現在郷土博物館に収蔵されています。たしかに昭和23年の空中写真に写っている古墳近くの蛇行する水路も、昭和33年の空中写真では全く確認できなくなっています。

しかしながら、近年の発掘調査によつて、古記録にその名を残す三方塚古墳や荒神山古墳の周溝が発見され、その存在が明らかとなっています。また愛宕山古墳は発掘調査による存在の確認はできておらず、今回の円筒埴輪しか残されたものはありません。ただ、写真や地籍図などから愛宕山古墳の所在地はおおよその検討がついているので、いつの日か再びその姿を現わす日が来るのではないのでしょうか。

（郷土博物館 篠田泰輔）



愛宕山古墳採集とされる円筒埴輪
(郷土博物館蔵)

大人のためのミニ朗読会（若葉）

- ▶日時 5月17日(日) 午後1時30分～2時40分（午後1時開場）
- ▶場所 中央公民館レクリエーション室
- ▶内容
 - ・「葉っぱのフレディ」（絵本）レオ・バスカーリア／作 童話屋
 - ・「教科書にでてくるお話6年生」より「桃花片」岡野薫子／著 ポプラ社 他1作品
- ▶定員 70人(先着順)
- ▶協力 行田朗読の会

雑誌リサイクル市を開催します

- ▶日時 5月30日(土)・31日(日) 午前9時～正午
- ▶場所 「みらい」談話コーナー
- ▶内容 保存期間(2年間)が経過した雑誌を1冊50円で販売します。
- ▶その他
 - ・雑誌を持ち帰る袋をご用意ください。
 - ・支払いは現金のみ
 - ・申し込み不要

図書館利用カードを忘れた場合の対応

これまで、図書館利用カードを忘れた場合でも、所定の用紙に必要事項を記入することで貸し出しができましたが、令和8年5月1日以降は図書館利用カードを忘れた場合は貸し出しができませんので、ご注意ください。

なお、行田市立図書館公式LINEアカウントに友達登録し、図書館システムとアカウント連携をすることにより、LINE画面上に利用者コードを表示できます。カードを忘れた際にも便利にご利用できますので、ぜひご登録ください。



図書館 LINE アカウント

来て! 見て!

図書館

と しょ かん

開館時間

午前9時～午後7時

休館日

5月7日(木)・11日(月)・18日(月)・25日(月)、
6月1日(月)・2日(火)・8日(月)

※休館日の図書の返却はブックポストをご利用ください。

図書館

佐間3-24-7(「みらい」内)

TEL:556-4227

FAX:555-3770



アートで人とまちをつなぐ

棚澤 麻由子（奥西 麻由子）さん（下池守・47歳）

今月紹介するのはアートマネジメントや美術教育を専門とする大学教員で、アートフェスタ実行委員会代表として地域活動に取り組み棚澤麻由子さんです。

棚澤さんは小学生の頃からイラストや漫画を描くことが好きでした。「子どもたちに美術の楽しさを伝えたい」との思いから、埼玉大学教育学部に進学し、同大学大学院を修了。その後、東京学芸大学大学院に進学し彫刻の研究を続ける傍ら、県内の高校などで非常勤講師として美術指導に当たりました。そして、生徒らと関わる中で「どうすれば美術に興味を持ってもらえるか、楽しんでもらえるか」とアートの触れる機会や方法について常に考え続けてきました。

その答えのヒントとなったのが神奈川県川崎市の美術展に出展した際の建築家からのアドバイス。それまでは、美術館などの閉ざされた空間での作品の展示、展示という固定概念に捉われていた



という新たな視点に気づかされたことで、「世界が広がった」と振り返ります。

平成21（2009）年、これまで関わってきた仲間を掛け、アートフェスタ実行委員会を結成。滑川町の国営武蔵丘陵森林公園で野外美術展を開催し、翌年には『国営公園夢プラン公募チャレンジ部門最優秀賞』を受賞しました。その後も展覧会などが少なくなったコロナ禍での作品の屋外展示や、元々外部との交流の少ない中学校の美術部を対象とした生徒同士でコミュニケーションが取れるような交流の機会を創出する活動に力を入れてきました。

市内では「花水アートフェスタ」と題して、光る浮き球風オブジェや花を使ったポールブーケを作るワークショップを開催した他、今年の3月にはみんなで花水を作るワークショップを開催し、忍城址には参加者が制作した作品が並びました。

棚澤さんは地域らしさを生かしたアートのイベントを通じて、子どもから大人まで気軽にアートの触れることができる機会を企画・運営しています。活動していく上でスタッフの確保などの課題はありますが、参加者や来場者からの「楽しい」「元気をもらった」という声や次の原動力になると笑顔で話します。

「長い人生の中で、アートはつらいときの支えや癒し、そして心のよりどころになる」「今後一年に一度は新しいことに挑戦していきたい」と語る棚澤さん。彼女が生み出すアートの世界は、目まぐるしく過ぎていく日常の中で私たちの心に豊かさや癒しを与えてくれるはずですよ。

俳句壇田

ぎょうだ はいだん

はや五年生命ながらえ春の雪

持田 倉澤 進司

【句評】地上最強の人間でも病には勝てない。掲句は術後5年の経過観察を乗り越えて命をつなぎとめたという重いテーマの一句である。季節、春の雪は明るく華やかなイメージがある反面はかなさの象徴でもある。作者の喜びと不安で揺れ動く胸の内を表すには絶妙の選択といえるだろう。せっかく、助かった命だから、大事に前向きに生きてほしい。

餌あげたうさぎに別れ卒業す

棚田町 川鍋 幽覚

【句評】情操教育の一環として校内で小動物を生徒たちが飼育している。命の尊さ、思いやる心を育むためである卒業によってかわいがってきたウサギとの別れは子どもたちにとってはつらく寂しいことかもしれない。掲句はそうした光景を捉えた一句である。子どもたちが果立っていく社会は急速なテクノロジーの進化によって人間の心が壊されつつある。

花曇り交はす言葉のやはらかし

樋上 吉澤とし子

【句評】花曇りは桜が咲くころの曇天をいう。この季節は少々天候が悪くても心がうきうきとして明るい気分になり、会話も弾み優しい気持ちとなる。そんな雰囲気をつかえた一句である。殺伐とした世界情勢、戦争という名の下に平気で人を殺りくする、嫌な世の中になつてしまった。せめて掲句のような情景が世界中に広がってほしいものである。

- ゆくゆくは消える田畑野火走る 門井町 宮田 淑尚
うかれ猫もつてのほかの声を出す 緑町 松林 真弓
日輪は百万ボルト風光る 佐間 西岡 備中
麦青む路地走り行くランドセル 荒木 高澤よね子
目覚むれば菜の花畑ゆく列車 小見 川島 盾子
ダム湖涸れみな待ち望む菜種梅雨 渡柳 大西 道子
つぶらなる瞳で散歩いぬふぐり 谷郷 伊東 典子
(三沢一水選評)